

2017年度大学入試センター試験 解説〈日本史B〉

第1問 東アジア情勢と国内外の交通・通信（手紙）

第1問は会話文形式が続いていたが、2016年度は大学生の日記、2017年度は大学生の手紙というかたちで問題文が構成された。

問1 正解は②。

ア 「オランダやイギリスの商館が置かれた地」は、^{ひらど}平戸。

平戸については、(1)1550年にポルトガル船が初めて入港したこと（南蛮貿易の開始）、(2)1609年にオランダ、1613年にイギリスがそれぞれ平戸に商館を開いたこと、(3)イギリスはオランダとの競争に敗れて1623年に平戸の商館を閉鎖したこと、(4)1641年にオランダ商館が平戸から長崎の出島に移されたこと、に注目したい（イギリスは対日貿易から撤退していたため、長崎にイギリスの商館は置かれていない）。

イ ^{こうらい}高麗の軍事組織である^{さんべつしやう}三別抄（「別抄」とは精鋭部隊をいう）は、^{さいしゅうとう}濟州島などを拠点にして元の高麗侵攻に激しく抵抗した。この^{さんべつしやう}三別抄の乱（1270～1273）は、元の日本侵攻にとって大きな障害になったと考えられている。

12世紀頃、^{グスク}沖縄には米・麦などの農耕が浸透し、^{あじ}城を拠点とする^{あじ}按司と呼ばれる首長が現れ、14世紀には^{ほくざん}沖縄本島を中心に^{ちゆうざん}北山（山北）・^{なんざん}中山・^{なんざん}南山（山南）の三王国が分立する^{さんざん}三山時代となった。このような三山時代は、^{しやうはし}中山王の^{しやうはし}尚巴志が1416年に北山王、1429年に南山王を破って琉球の統一に成功し、^{りゅうきゅう}琉球王国を樹立したことにより終止符がうたれた。

問2 正解は③。

③ ^{ごりやうしよ}室町幕府の直轄地である^{ごりやうしよ}御料所は諸国に散在し、幕府の財政基盤としては^{ぜいじやく}脆弱だった。このため、(1)守護を通して全国的に^{ふか}賦課した^{たんせん}段銭・^{むねべつせん}棟別銭、(2)高利貸業者に課した^{どそうやく}土倉役・^{さかややく}酒屋役、(3)^{せきせん}関銭・^{つりよう}津料（寺社も関銭・津料を徴収した）、といった税により、^{ほてん}財政基盤を補填する必要があった。

① 「高地性集落がつくられた」のは、^{よじやうせい}弥生時代。

弥生時代に入り生産経済に移行すると、^{よじやうせいざんぶつ}余剰生産物などをめぐって集落間では争乱が繰り返された。それにともない^{ぼろうろう}望楼（物見櫓）や^{ものみやぐら}柵・濠・土塁などを備えた^{かんごう}環濠集落や、海拔100 m以上の山頂や丘陵部に営まれた^{かんごう}高地性集落といった、軍事的性格の強い集落が各地にみられるようになった。（「魚群を見張るため」も誤り）。

- ② 「源経基」を「藤原純友」とすれば正文になる。

もと伊予掾（国司の三等官）で、任期が過ぎても帰京せず、日振島を本拠として海賊を率いて活動した藤原純友は、939年に本格的な反乱を起こした。讃岐の国府を攻め落とし、反乱の規模を拡大する純友に対し、朝廷は追捕使の小野好古や源経基（清和源氏の祖）らを鎮圧にあたらせた。941年、大宰府を襲撃した純友は、追討軍により討たれ、乱は鎮圧された。

- ④ 「揚浜」を「入浜」とすれば正文になる。

中世から近世初期にかけては、満潮時の海水が冠水しない位置に築き、海水をくみ上げて、塩田にまいて濃い海水をつくる揚浜法が多くみられた。一方、江戸時代には、高度な土木工事を必要とし、潮の干満を利用する入浜法が発達し、瀬戸内海の沿岸部などで普及した。

問3 3 正解は①。

X 正文。608年の遣隋使には、学問僧旻・南淵請安、留学生高向玄理らが同行した（旻は632年、南淵請安・高向玄理は640年に帰国）。彼らは隋が滅んで唐が成立するといった中国大陸の情勢や、中国の制度・思想・文化についての先進的な知識を伝えた。645年、皇極天皇の時代に起こった乙巳の変ののち、孝徳天皇のもとで、旻・高向玄理は政治顧問である国博士となり、中大兄皇子らが主導した大化改新において重要な役割を果たした。

Y 正文。明朝末期の政情不安を背景に亡命してきた隠元隆琦は、中国明代の禅宗一派である黄檗宗を伝えた。彼は長崎の崇福寺に入り、のち宇治に万福寺を開いた。

問4 4 正解は①。

ウ 「朝鮮から伝わった新技術」である灰吹法は、「世界遺産」に登録された石見銀山（→ a、石見大森銀山、島根県）に導入された。灰吹法は、博多商人である神屋（神谷）家の神谷寿禎が朝鮮から伝えた銅の精錬技術で、寿禎は16世紀前半に石見銀山の採掘に関わり、灰吹法の導入によって銀の生産高を増大させた。

bは、但馬（兵庫県）の生野銀山付近を指している。

エ 「アメリカとの通商条約で開港された」のは、新潟（→ c）。

大老井伊直弼は、無勅許で日米修好通商条約に調印した。さらに同様の条約を、イギリス・フランス・オランダ・ロシアとも締結した。これらは安政の五カ国条約と呼ばれる。勅許を得ずに調印されたことにも注意しておきたい。

【整理】日米修好通商条約（1858年）

- (1) 神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港と江戸・大坂の開市。
- (2) 開港地に居留地を置く。一般外国人の国内旅行禁止。
- (3) 通商は自由貿易とする。
- (4) 日本滞在のアメリカ国民への領事裁判権の容認（治外法権）。
- (5) 関税は別冊（貿易章程）による相互協定で決定する（協定関税制）。

dは、西廻り海運や東廻り海運の起点である酒田付近を指している。

問5 正解は⑥。

Ⅲ 「宣戦布告」は、1900年代。

1904年、「露艦」（注にロシア軍艦とある）への宣戦布告により、日露戦争が勃発した。

Ⅱ 「満州・内蒙古の開拓への参加」が促されたのは、1930年代。

1931年に満州事変が勃発し、翌年に満州国が建国されると、政府は満州への農業移民を国策として奨励するとともに、1938年からは満蒙開拓青少年義勇軍を送りこんだ。

I 「復員軍人」や「引揚げ者」が日本に帰国したのは、1940年代。

1945年8月に日本はポツダム宣言を受諾し、9月には降伏文書に調印した。第二次世界大戦終結後、日本の敗戦とともに、兵役を解かれた将兵の復員が実施されただけでなく、日本の支配が終結した地域や占領地・戦地にいた日本人には、日本本土への引揚げが指示された。

問6 正解は④。

④ 「横須賀」を「横浜」とすれば正文になる。

イギリスの技術指導を得て、1872年、新橋・横浜間に官営鉄道が敷設された。横須賀については、幕末期の横須賀製鉄所と明治から戦前期の横須賀海軍工廠を押さえておこう。

【参考】横須賀造船所・横須賀海軍工廠

1865年、フランスの技術支援によって起工された幕府直営の横須賀製鉄所は、新政府に引き継がれ、1871年に横須賀造船所と改称され、1903年の海軍工廠条例により横須賀海軍工廠となった。

第2問 古代の思想・信仰と政治・社会との関係

鹿子木 荘の史料（2015年度）・「魏志」倭人伝（2014年度）・『宋書』倭国伝（2013年度）というように基本史料の引用が定番となっていたが、昨年は教科書に掲載され

ているような基本史料が出題されず、受験生にとって初見と考えられる史料が出題された。また、今年は史料問題だけでなく、視覚資料を用いた問題もみられなかった。

問1 正解は④。

ア 「飛鳥寺（法興寺）」を建立したのは、蘇我氏。

6世紀初めにヤマト政権内で政治を主導したのは大伴氏だったが、加耶西部に百済の支配権が確立したことが失政とされ、大伴金村は失脚した。その後、ヤマト政権内の政治権力を争ったのが物部氏と新興の蘇我氏である。蘇我氏は渡来人と結びついて財政権を掌握して政治機構を整え、仏教受容や皇位継承問題をめぐって物部氏と激しく対立し、587年、蘇我馬子は物部守屋を滅ぼした。飛鳥寺（法興寺）は、蘇我馬子によって建立された寺院である。

イ 律令制下では、地方豪族が郡司として行政を担った。

中央の官人が一定の任期で国司として派遣されたのに対し、郡司には在地の豪族が任じられた。郡司は任期がなく終身官だった。

問2 正解は②。

② 「最初の全国的な戸籍である庚午年籍がつくられた」のは、7世紀後半の670年。

天智天皇のもとでつくられた庚午年籍は、のちに永久保存とされたが、現存していない。

① 「飛鳥の地」に大官大寺が建立されたのは7世紀後半であるが、西大寺は8世紀後半において、平城京の地に建立された寺院なので誤り。

③ 「冠位十二階」を八色の姓とすれば正文になる（「冠位十二階」は7世紀初頭に制定されたので誤り）。

603年、推古天皇の時代に定められた冠位十二階は、徳・仁・礼・信・義・智の6種を大小にわけた12階を色などが異なる冠で表し、大王に対する個人の序列を明確にしたもの。冠位十二階は、氏姓制度の世襲制を打破して氏単位の組織を再編成し、有能な人材を登用できる体制を整備しようとしたものだと考えられている。

④ 「『旧辞』の編さんが開始された」のは、6世紀。日本における歴史書の編纂は、天皇家の系譜やその事績などを記した『帝紀』や神話や伝説をまとめた『旧辞』など伝承の記録に始まるといわれている（「大王の系譜などを採録する『旧辞』」も誤り）。『古事記』序文によれば、『帝紀』や『旧辞』を天武天皇が稗田阿礼に誦習させたが完成せず、のち元明天皇の命を受けた太安万侶（安麻呂）がこれらを筆録して『古事記』が成立したという。

問3 9 正解は③。

- a 誤文。新しい知識や技術を持つ渡来人は、^{とものみやつこ}伴造や伴に編成され、^{しなべ}品部の集団がそれを支えた（「陵戸」は誤り）。
律令制下において、人びとは^{りょうみん}良民と^{せんみん}賤民とに区分された。賤民とされた^{かんこ}官戸・^{りょう}陵戸・^{こくぬひ}公奴婢・^{けにん}家人・^{しぬひ}私奴婢を^{ごしき}五色の賤という。
- b 正文。6世紀には、百済から^{ごきょうはかせ}五経博士が渡来し、^{しゆきよう}儒教を伝えたとされている。なお、百済からは^{えき}易・^{れき}曆・^い医博士も渡来した。
- c 正文。迷ったかもしれないが、(1)663年の^{はくそんこう}白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に百済・倭が大敗したのち、百済から多くの人びとが倭に亡命したこと、(2)倭は唐や新羅の侵攻に備えるため、百済からの^{おおのじょう}亡命貴族の指導のもと、九州の要地を防衛する^{おおのじょう}大野城などの^{ちようせんしきやまじろ}朝鮮式山城などを築いたこと、(3)8世紀の天平文化期には、最初の漢詩集である^{かいふうそう}『懷風藻』が編まれたこと、などから正文だと判断したい。
- d 誤文。遣唐使の航路は、初め朝鮮半島沿岸伝いの比較的^{ほくろ}安全な北路がとられたが、新羅との関係が悪化した8世紀からは、東シナ海を横断する危険な^{なんろ}南路などをとらざるをえなくなった（「8世紀……朝鮮半島沿岸を通過」は誤り）。

問4 10 正解は⑤。

- Ⅲ 「藤原広嗣が敗死した」のは、8世紀前半。
^{ひろつぐ}藤原広嗣は、740年、^{げんぼう}橘諸兄のもとで活躍していた^{きびのまきび}玄昉・吉備真備らの排斥を企図して大宰府で反乱を起こした（藤原広嗣の乱）。
- I 「藤原種継が暗殺され、早良親王が首謀者として処罰された」のは、8世紀後半。
784年に造長岡宮使となり、^{たねつぐ}長岡京への遷都を主導した藤原式家の藤原種継は、翌年に暗殺された。この事件に関わったとして、桓武天皇の皇太弟（皇太子）だった^{さわら}早良親王は廃され、流される途中で死去した。その後、桓武天皇の母や皇后らがあいついで亡くなったのは、早良親王の怨霊によるものと考えられた。794年の平安京への再遷都は、怨霊から逃れるためだったともいわれている。
- II 「橘逸勢が、謀反を企てたとして流罪になった」のは、9世紀前半。
^{たちばなの}橘逸勢は^{はやなり}能書家として知られ、のちに^{さんびつ}嵯峨天皇や空海とともに三筆と称されたが、^{じょうわ}承和の変で配流された。

【参考】 承和の変

842（承和9）年、皇太子恒貞親王派の^{つねさだ}伴（大伴）^{ともの}健岑や^{こわみね}橘逸勢が謀反を企てたとして配流され、恒貞親王が廃されて^{みちやす}道康親王が皇太子となった（承和の変）。道康親王は^{よしふさ}藤原良房の妹の子で、のちに^{もんたく}文徳天皇として即位していることなどから、承和の変は藤原北家による他氏排斥事件の1つとされている。

問5 11 正解は③。

- ③ 「一木造」を「寄木造」とすれば正文になる。
 定朝^{じょうちょう}は、平安時代の国風文化の頃、寄木造^{よせぎづくり}の技法を完成した仏師。

【参考】 寄木造

仏像の頭部と胴体を一木の木材でつくる一木造^{いちぼくづくり}に対し、仏像の頭部・胴体を複数の木材からつくる技法。仏師の定朝が完成した寄木造は、仏像をいくつかの部分に分けて別々の工人に分担・制作させ、最後に寄せ合わせる技法であったため、仏像の大量需要に応え、巨大な仏像をつくることも可能となった。

問6 12 正解は②。

- X 正文。9世紀には、浮浪・逃亡・偽籍^{ふろう とうぼう ぎせき}が増加するなかで、戸籍・計帳の制度も崩れ、班田制を維持して調・庸^{ちよう よう}を課することが困難になった。

このような状況に対し、(1)大宰大貳小野岑守^{みねもり}の建議による大宰府管内などの公營田^{くえい}、(2)官人の給与などに充てるための官田^{かんでん} (元慶官田、畿内)^{かんぎょう}、などを設置して、収納物を確保しようとした。

- Y 誤文。「記録荘園券契所 (記録所) が設置された」のは、11世紀後半 (「10世紀前半」は誤り)。

1069年、後三条天皇は、摂関家の荘園をも対象とした延久^{えんきゆう}の荘園整理令を発した。この荘園整理令では、荘園領主に提出させた証拠書類や国衙の報告書を、原則として太政官に設置された記録荘園券契所^{きろくしやうえんけんけいじょ} (記録所) で審査するかたちをとった。この結果、34カ所あった石清水八幡宮の荘園のうち13カ所の権利が停止されるなど、かなりの成果をあげた。

なお、10世紀前半には、最初の荘園整理令とされる、延喜^{えんぎ}の荘園整理令が出されている。

第3問 中世の政治・社会・文化

2016年度までは3年連続して近世初期までを範囲とする問題が続いていたが、今年度は中世のみの出題範囲に戻った。

問1 13 正解は②。

- X 正文。将軍が荘園領主となった荘園、および平家没官領^{もつかん} (平氏から没収した荘園) から構成された関東御領^{かんとくごりやう}だけでなく、関東知行国^{かんとくちぎやうこく} (関東御分国^{かんとくごぶんこく}、将軍が知行国主として国司を推挙することで、国衙からの収入のうち一定量を受け取ることができた) も、

鎌倉幕府の経済基盤だった。

- Y 誤文。鎌倉幕府が各国に配置した守護の基本的職権は、だいほん大犯三カ条（おおばんさいそく大番催促・む謀叛人の逮捕・ほんにん殺害人の逮捕）と呼ばれる。このうち大番催促は、天皇や院の御所を警備するもので、「將軍の御所」を警備するのはかまくらばんやく鎌倉番役である。

問2 14 正解は③。

- a 誤文。b 正文。「鎌倉幕府が幕府側に味方した武士に与えた文書」である史料には、「次郎、御方において合戦の忠を致し」とある（→bの「鎌倉幕府側の味方」は正しい、aの「後鳥羽上皇側の味方」は誤り）。
- c 正文。d 誤文。「重俊の子息である次郎」が幕府側に味方したので、「地頭職、相違なく安堵せしむべき」ことが記されている（→cの「息子が鎌倉幕府側に味方したので、重俊は地頭職を安堵」は正しい、dの「息子が後鳥羽上皇側に味方したので、重俊は地頭職を没収」は誤り）。

本問は、承久の乱後の幕府の措置や、「安堵」という歴史用語の理解が判断のために必要だった。

【参考】 御恩と奉公

將軍は御家人に対し、地頭に任命することで御家人の先祖伝来の所領を保障するほんりょうあんど本領安堵、功績に応じて新たな所領を与えるしんおんきゅうよ新恩給与などを行った（御恩）。これに対して御家人は、平時には京都大番役や鎌倉番役などの警備の職務を、戦時には軍役を負う奉公を勤めた。

問3 15 正解は①。

詳細な年代の暗記を求めている設問ではなく、Ⅰの建長寺船は鎌倉幕府が派遣したこと、Ⅱは幕府滅亡後の建武の新政において設けられたこと、Ⅲの『神皇正統記』は建武の新政のあとに生じた南北朝の動乱期に著されたこと、などを理解していれば判断は容易である。

- Ⅰ 「元に建長寺船が派遣された」のは、1325年。
鎌倉幕府によって派遣されたけんちようじぶね建長寺船や、室町幕府（あしかがたかうじ足利尊氏ら）によって派遣されたてんりゅうじぶね天龍寺船は、15世紀に開始される日明貿易の伏線として学習することが多い。明ではなく元に派遣されたことに注意したい。
- Ⅱ 「雑訴決断所が設置された」のは、1333年。
ざつそけつだんしよ雑訴決断所は、建武の新政に際し、ごたいご後醍醐天皇が設置した所領関係の訴訟機関（鎌倉幕府の引付に相当する機関）。

Ⅲ 「北畠親房が『神皇正統記』を著した」のは、1339年。

南朝の重臣北畠親房きたばたけちかふさは、関東地方で幕府軍と戦う一方で、南朝の正統性を主張した史論書『神皇正統記』じんのおうしやうとうきを常陸国小田城ひたち おだじょうで執筆し、後村上天皇に献上した。

問4 16 正解は④。

ア 室町幕府の要職である管領かんれいは、将軍を補佐し、侍所・政所などの中央諸機関を統轄した。管領には、足利氏一門の有力守護である細川氏ほそかわ・斯波氏しば・畠山氏はたけやまが交代で就任した（三管領）。

執権は、鎌倉幕府の要職。1203年に北条時政とくまさが鎌倉幕府の政所別当に就任して執権と呼ばれるようになり、やがて義時よしとき（時政の子）が侍所の別当も兼任して執権の地位が確立した。

イ 奉公衆ほうこうしゅうは、室町幕府将軍直属の軍事力で、自立性を増した守護勢力を牽制する一方、幕府直轄領である御料所の管理にあたった。足利氏や守護大名家の一族や国人などの有力地方武士などから構成された。

評定衆ひやうじやうしゅうは、鎌倉幕府3代執権北条泰時やすときが、合議制にもとづく政治を行うため、1225年に設置した役職。泰時は執権の補佐役である連署れんしよや評定衆をごせいばいしきもくにおいて御成敗式目を定め、5代執権北条時頼ときよりは引付衆ひきつけしゅうをおくなど、北条氏のもとで、合議にもとづく執権政治が確立した。しかし、しだいに北条氏の専制的傾向も強まった。

問5 17 正解は③。

X 中世における商工業者の同業組合である座ざは、平安時代末期からみられるが、室町時代にその数が増加し、最盛期を迎えた。座は朝廷・貴族・寺社などを本所ほんじよとし、本所に貢納・奉仕などを行うかわりに、生産や販売の独占権を与えられて営業するようになった。代表的な例として、(1)石清水八幡宮いwashimizuはちまんぐう（厳密には石清水八幡宮の末社である大山崎離宮八幡宮）を本所とする大山崎の油座（→b、油の原料である荏胡麻の購入の独占権と油の販売の独占権を与えられていた）、(2)北野神社を本所とする麴座こうじ、(3)祇園社ぎおんしゃを本所とする綿座わた（→a）、などが知られている。

Y 室町時代には、宋銭そうせんに加え、日明貿易で輸入された永楽通宝えいらくつうほうなどの明銭みんせんが流通した。商品流通の発展が貨幣需要を増大させると貨幣の供給量は不足し、日本国内で鑄造された粗悪な私鑄銭しちゅうせんが流通するようになった。これら私鑄銭や破銭われぜに・欠銭かけぜになどの悪銭が横行するなかで、銭の質・種類によって受領を拒否して良銭など他の銭での支払いを求める撰銭えりぜに（→c）が日常化した。これに対して幕府や戦国大名は、悪銭と良銭の混入比率（使用割合）を定めたり、粗悪な貨幣の使用を禁じたりした撰銭令を發布し、貨幣流通の円滑化をめざした。

- d ^{ぶいちせん}分一銭とは、債権・債務額などの何分の一かの割合で負担する銭のことをいう。室町幕府は、^{ぶいちせん}分一徳政令または徳政禁制の発令にあたり、債務者または債権者から債権額の10分の1（または5分の1）を幕府に納入させ、債権を保護（または債務を破棄）した。

問6 18 正解は①。

- ① 朝鮮は、^{よしみつ}倭寇の禁止と通交を日本に求め、3代将軍足利義満もこれに応じ、両国の間に国交が開かれた。そのうち、日朝貿易では、守護・国人・商人なども参加するようになった。
- ② 室町幕府4代将軍足利義持^{よしもち}は、朝貢形式をきらって明との国交を拒絶した（「朝鮮」は誤り）。

中国を中心とする国際秩序の再建をめざす明は、近隣諸国に入貢を要求し、日本にも倭寇禁圧や朝貢を求めてきた。義満は貿易による利益を重視し、この要求を受けて1401年に明へ使者を派遣して正式に国交を開いた。日本からの貿易船は明から下賜された^{かんごう}勘合を持参し、^{ニンポー}寧波で照合したので、日明貿易は^{かんごう}勘合貿易とも呼ばれる。

義満は明の皇帝への上表文に「日本国王臣源」と署名したが、こうした朝貢形式の外交を屈辱的として4代将軍義持は明との国交を拒絶した。このため貿易は一時中断するが、のちに6代将軍義教^{よしのり}が復活させた。

- ③ 室町時代の日明貿易では、日本がおもに銅・金・^{いおう}硫黄といった鉱産物や^{おうぎ}扇・刀剣・^{びょうぶ}屏風など伝統工芸品を輸出し、明からは銅銭や生糸・陶磁器、書籍、高級織物などを輸入した（「日本は書籍や陶磁器をおもに輸出し、中国から刀剣や屏風をおもに輸入した」は誤り）。一方、日朝貿易では、銅・硫黄のほか、琉球貿易で入手した^{そぼく}蘇木（染料の原料）・^{こうぼく}香木（香の原料）などの南方の特産物が輸出品、^{もめん}木綿などが輸入品となった。保温性に優れた木綿は衣服の主流であった麻にかわって普及し、戦国時代には日本国内でも栽培が始まった。
- ④ 室町時代には、^{じよせつ}如拙（『瓢鮎図』）や^{せっしゅう}雪舟（『四季山水図巻』『秋冬山水図』）が水墨画を描いた。一方、^{たかのぶ}藤原隆信（『伝源頼朝像』）は、子の^{のぶざね}藤原信実（『後鳥羽上皇像』）とともに鎌倉時代に^{にせえ}似絵とよばれる写実的な絵を描いた（「室町時代」「水墨画」ではないため誤り）。

第4問 近世の文化・政治・社会

Aは「近松門左衛門」、Bは「1787年」に焦点をあてた問題文だった。第4問における初見史料を用いた出題は、定番となりつつある。

問1 19 正解は③。

げんろく いはらさいかく まつお ぼしやう ちかまつもん ざ えもん
元禄文化期には、井原西鶴・松尾芭蕉・近松門左衛門らの上方の町人文学が隆盛した。

ア 近松門左衛門は、現実社会や歴史に題材を求め、義理人情に悩む人間の姿を描いた作品で知られる浄瑠璃作者。歴史上の出来事を題材とした時代物に『国性(姓)爺合戦』、世相を題材とした世話物に『曾根崎心中』、『心中天網島』、『冥途の飛脚』がある。

井原西鶴は、享乐的現世を題材とした浮世草子を大成した。西鶴は談林派の俳人だったが、やがて浮世草子の創作に傾倒した。代表作として、(1)男女の愛欲生活を描写した好色物の『好色一代男』や『好色一代女』、(2)町人の生活を題材とした町人物の『日本永代蔵』や『世間胸算用』などがあげられる。

イ 明治時代の日清戦争などを想起すれば「清の滅亡」は考えられないため、消去法でも選択が可能だった。

中国大陸では、1644年には漢民族の建てた明が滅亡し、満州民族の清が中国を統一した。しかし、明の滅亡後も、満州民族の支配に対する抵抗が完全に消滅したわけではなかった。たとえば、明の遺臣鄭成功が、台湾を拠点に清に抵抗したことは、よく知られている。問題文にもあるように、近松門左衛門の『国性爺合戦』は、日本人を母に持つ鄭成功が、明の再興に尽力した事績を脚色した内容となっている。

問2 20 正解は④。

④ きたまえぶね 北前船は、東北地方から下関を經由して瀬戸内海に入り、大坂に至る西廻り海運に就航した廻船。船主は、松前で集積した蝦夷地の物産を大坂などで売却して巨利を得た。

① 「末次平蔵」を、すみのくらしやうい 角倉了以とすれば正文になる。

朱印船貿易を営んだことでも知られる京都の角倉了以は、てんりゆうがわ たかせ 富士川・天龍川・高瀬川・賀茂川など河川舟運の整備にもあたった。幕府から海外渡航許可証である朱印状の交付を受け、朱印船貿易を行って巨利を得た人物として、(1)島津家久・有馬晴信などの九州の大名、(2)京都のちや しろうじろう 茶屋四郎次郎や角野倉了以、(3)摂津平野のひらの すえよしまござ 末吉孫左衛門や長崎のすえつぐへいぞう 末次平蔵、らがあげられる。

② 十組問屋は元禄期の1694年に江戸で成立した荷受問屋の仲間（「大坂堂島の十組問屋」は誤り、大坂の問屋は荷積問屋にじゅうしきみ 二十四組問屋）。

享保の改革期には、大坂堂島の米市場や株仲間が公認されたことを押さえておこう。

③ 江戸時代初期には播磨のたつの 竜野などで醤油生産が始まり、江戸へ運ばれるようになった。

た。しかし19世紀に入ると、^{かみがた}上方から送られてくる下り醤油に対し、下総の野田・銚子に代表される関東醤油がしだいに増加した（「上方で生産された醤油が、幕末まで江戸の市場を独占」は誤り）。

問3 21 正解は③。

X 元禄文化期に活躍した^{ひしかわもろのぶ}菱川師宣（→b）の肉筆画『^{みかえ}見返り美人図』。菱川師宣については、浮世絵版画を創始し、浮世絵の大衆化に貢献したことも知っておきたい。

a ^{かんえい}寛永文化期から元禄文化期にかけての絵画の分野では、朝廷絵師の^{とさみつおき}土佐光起（土佐派＝応仁の乱後に形成された大和絵の一流派）や、幕府の御用絵師になった^{すみよしよ}住吉如慶・^{ぐけい}具慶が活躍した。住吉派は、土佐派から分かれた大和絵の一派。

Y 元禄文化期に活躍した^{おがたこうりん}尾形光琳（→c）の工芸品『^{やつはしまきえらでんすずりばこ}八橋蒔絵螺鈿硯箱』。京都の富裕な呉服商の子として生まれた尾形光琳は、斬新な構図と華麗な色彩を用いて装飾画を大成し、『^{かきつばたず}燕子花図屏風』や『^{こうはくばいず}紅白梅図屏風』などの作品を残した。

d 元禄文化期に活躍した^{のむらにんせい}野々村仁清は、京焼の祖とされる陶工で、『^{いろえつきうめもんちゃ}色絵月梅文茶壺』などの作品で知られる。その作品は、寛永文化期に活躍した酒井田柿右衛門の『^{いろえかちょうもんふかばち}色絵花鳥文深鉢』と混同されやすいが、野々村仁清が茶人の保護を受け、おもに茶器類を焼いたことを知っておくと判断しやすい。

問4 22 正解は①。

ウ 1782年からの冷害に^{せんまの}浅間山の噴火が加わり、天明の飢饉の被害は拡大した。百姓一揆が全国で頻発するなか、1786年、^{たぬまおきつぐ}田沼意次は10代将軍徳川家治の死後、まもなく老中を罷免された。翌1787年には主要都市で^{てんめい}天明の打ちこわしが起き、11代将軍徳川家^{いえなり}齊のもとで老中松平定信が寛政の改革に着手した。

^{みずのただくに}水野忠邦は、1841年、大御所徳川家^{いえなり}齊が死去したのち、12代将軍徳川家^{いえよし}慶のもとで天保の改革に着手した。しかし、1843年に失脚し、改革は短期で挫折した。

エ ^{そんごういっけん}尊号一件（尊号事件）は、朝幕関係を悪化させた寛政の改革期の事件。

1789年、朝廷は^{こうかく}光格天皇の実父である閑院宮^{かんいんのみやすけひと}典仁親王に、太上天皇の尊号^{せんげ}宣下を望んだ。これに対して、幕府側の^{しんぺい}松平定信は「太上天皇号は天皇の地位に就いた者が冠せられる尊号である」という理由から尊号宣下に反対し、^{ぶけてんそう}武家伝奏らを処罰した。この事件を契機に、朝廷と幕府の協調関係は崩れていったと考えられている。

^{しえ}紫衣事件（1627～1629）は、17世紀前半に発生した、朝幕関係に緊張を生じさせた事件。紫衣とは、特別の高僧に与える紫色の法衣や^{けき}袈裟のことで、江戸幕府は1615年の禁中並公家諸法度で紫衣の許可に関する規定を設けていた。1627年、幕府は^ご後水尾天皇が^{みずのお}出した紫衣着用の勅許を禁中並公家諸法度違反であるとして無効にし、さ

らにこれに抗議した大徳寺の僧沢庵だいたくじ たくあんらを1629年に処罰した。一方、後水尾天皇は和子（2代将軍徳川秀忠の娘）を母とする明正めいしょう天皇に譲位した。この事件において、幕府の法度が天皇の勅許に優先することが示された。

問5 23 正解は①。

1787年の江戸の打ちこわし（天明の打ちこわし）の際に、先手組さきてに出された指示に関する史料。

X 正文。「組のものを召し連れ、今日より相廻り」とあるため、「先手組に、江戸市中の見回りをするよう指示している」は正文だと判断できる。

Y 正文。「暴れ候ものども召し捕え、町奉行へ相渡さるべく」とあるため、「逮捕した者を、町奉行所に引き渡すように先手組に命じている」は正文だと判断できる。

問6 24 正解は②。

尊王論に関する年代整序問題。尊王論とは、一般的に君主（天皇）を尊ぶ思想をいうが、江戸時代後期になると、尊王論の立場から幕府を批判する言論が目立つようになった。やや時期の近い選択肢が並んでいるが、宝暦事件ほうれきと明和事件めいわの前後関係、幕末期の水戸藩の動向を把握しておけば、判断は難しくないだろう。また、尊王論から尊王攘夷論へ、といった展開も把握しておきたい。

I 「竹内式部が追放された」のは、18世紀半ば（当時の将軍は、9代徳川家重いえしげ）。

III 「山県大弼が死罪となった」のは、18世紀後半（当時の将軍は、10代徳川家治いえはる）。

【参考】 宝暦事件・明和事件

垂加神道すいかしんどうを学んだ神道家の竹内式部たけのうちしきぶは、1758年、京都で公家に神書・儒書を講じたため、朝廷からの告発を受けた京都所司代によって京都から追放された（宝暦事件）。

江戸で私塾を開いていた兵学者の山県大弼やまがただいは、著書『柳子新論りゅうしんろん』で幕府政治を厳しく批判し、理想とする平安時代以前の朝廷政治への復古を主張した。そうした言動から幕府への謀反の疑いで逮捕され、山県大弼は1767年に処刑された（明和事件）。

そののち、竹内式部は、明和事件への関与を疑われ、八丈島に流罪となった。

II 「藤田東湖・会沢安（正志齋）らが、尊王攘夷論を説いた」のは、19世紀。

『大日本史』を編纂する過程で水戸学と呼ばれる学風が興った水戸藩では、1829年に徳川齊昭なりあきが藩主となり、改革に着手した。この改革に参与した藤田東湖ふじたとうこ（藤田幽谷

の子、『弘道館記述義』や会沢安（会沢正志斎、『新論』）らは、尊王攘夷運動に影響を与えた。

第5問 幕末から明治期の大阪（大阪）

かつては、2013 年度の「明治期の特許制度」・2014 年度の「明治期の租税制度」のように、テーマ的に難易度の高いものが目立ったが、2015 年度の「明治期の立法機関」、2016 年度の「明治期の地方制度」に続き、取り組みやすいテーマ（大阪（大阪））が取りあげられた。

第5問では、かつてグラフ・表を用いた設問がみられたが、昨年度に続き史料や図版を用いた問題は1問も出題されなかった。もともと設問数が少ない第5問は、取り組みやすかっただろう。

問1 25 正解は④。

転換期の将軍や天皇を問う問題。空欄補充は一般的に知っているかどうかで勝負がついてしまうことも多い。しかし、本問は、問題文全体を読み込んで、どの時期を扱っているのかを理解しなければ、選択肢を選びづらくなっている。以下の解説とともに、問題文を再読してほしい。

ア 13代将軍徳川家定^{いえさだ}は病弱で子がいなかったため、将軍継嗣問題が発生した。松平慶永^{よしなが}（越前藩主）・島津斉彬^{なりあきら}（薩摩藩主）ら一橋派^{ひとつばし}（幕府の改革派）は、徳川斉昭の子の徳川（一橋）慶喜^{よしゆき}を推した。これに対抗し、井伊直弼^{い い なおすけ}をはじめ譜代大名らの南紀派^{なんき}（幕府の保守派）は、将軍の血統に近い紀伊藩主徳川慶福^{よしとみ}を将軍後継者に擁立した。

1858年に大老に就任した井伊直弼は、徳川慶福（改名して家茂^{いえもち}）を継嗣に決定し、同年の家定死去により徳川家茂が14代将軍に就任した。

1866年、家茂の死によって15代将軍に就任したのが徳川慶喜である。徳川慶喜については、1867年10月14日、大政奉還^{たいせいほうかん}の上表を朝廷に提出したことを押さえておきたい。

イ 1866年、公武合体を支持していた孝明天皇が急病で没し、翌年に明治天皇が即位した。その後まもなく岩倉具視^{いわくらともみ}が西郷隆盛^{さいこうたかもり}・大久保利通らとはかった結果、10月には薩摩藩・長州藩に討幕の密勅（15代将軍徳川慶喜討伐の命令で偽勅説もある）がくだされた。しかし、これと前後して徳川慶喜も朝廷に大政奉還を申し出て受理された。将軍が政権を天皇に返上したことは、武力倒幕のための口実が失われたことを意味した。

雄藩連合政権下での徳川氏主導の施政継続をはかる徳川慶喜に対し、武力倒幕を企図する大久保や公家の岩倉具視らは、巻き返しをはかった。そこで、倒幕派の画策によって、12月9日に王政復古の^{たいせい}大号令が発せられた。

問2 26 正解は①。

X 正文。幕末期の社会では、「世直し」の風潮が急速に高まった。政治・経済の混乱や国学の尊王思想が農村に広まるなかで、1866年をピークに世直し一揆（土地の再配分・新税反対などを要求した一揆）が発生した。農村の一揆でも世直しが叫ばれた。

Y 正文。「ええじゃないか」の集団乱舞は、1867年から翌年にかけて発生し、支配秩序を動揺させた。狂乱的な集団乱舞である「ええじゃないか」は、伊勢神宮のお札が降ってきたのを機に起こった点など、御蔭参りとの関連性も指摘されるが、多くは伊勢参宮をとともなわない民衆行動であった。東海地方から中国・四国地方にかけての広い地域において展開したこの乱舞は、社会変革への期待が強く反映されたものともいわれている。

問3 27 正解は③。

大久保利通に関する正文選択問題。

大久保利通は薩摩藩士の家に生まれ、1860年代には西郷隆盛とともに、藩論を倒幕へと転換させた（→①、「木戸孝允とともに長州藩の中で実権を握った」は誤り）。

明治政府でも中心的存在となり、1871年には、長州の木戸孝允・伊藤博文らとともに岩倉使節団の副使に任じられ、1873年に帰国した（→②、「岩倉使節団を送り出したあとの国内政治を担当」は誤り）。このときに発生したのが明治六年の政変である。

【整理】 明治六年の政変

岩倉使節団に対する留守政府は、西郷隆盛・板垣退助・大隈重信・黒田清隆らが支えることになった。留守政府では征韓論が高まったが、帰国した使節団は内治優先を主張し、1873年にこれを退けた。このため、西郷隆盛をはじめ、土佐藩出身の板垣退助・後藤象二郎、佐賀（肥前）藩出身の江藤新平・副島種臣らの征韓派参議は下野した。

明治六年の政変ののち、大久保利通は広範な権限をもつ内務省の長官（内務卿）に就任し、殖産興業政策などを積極的に行っていった（→③）。

1874年、征韓論争に敗れ、愛国公党を設立した板垣・後藤・江藤・副島らは、民撰議院設立の建白書を左院に提出した。それは、藩閥政府を有司専制と批判し、公議世論による民撰議院の設立を要求するものだった。政府の中心にあった大久保利通は、政権安定のため立憲論へ歩み寄る動きを示し、翌1875年、板垣退助や当時下野していた木戸孝允と大阪会議を開いた（→④、「西郷隆盛」は誤り）。この会議で大久保は立憲制への移行を開始することを認め、木戸・板垣に政府復帰を求めた。

まもなく政府は漸次立憲政体樹立の詔を發布し、元老院・大審院・地方官会議を設置した。こうした改革の一方で、政府は讒謗律・新聞紙条例などを制定して、民権運動を厳しく取り締まった。

なお、西郷隆盛は、自由民権運動には直接参加しなかったが、1877年には西南戦争を起こし、敗死した。

問4 28 正解は①。

① 三池炭坑（炭鉱）（福岡県）は、江戸時代には柳川藩・三池藩の藩営だったが、1870年代に官営となった。1880年代に多くの官営事業が払下げの対象となるなかで、三井の経営となった（→「住友」は誤り）。

住友は、17世紀末に別子銅山（愛媛県）を発見し、銅の採掘によって財をなし、近代において財閥へと成長した。

第6問 近現代の公園

2014年度では「漫画家手塚治虫」、2015年度では「作家林芙美子」と、人物を取りあげた問題が定番となっていたが、2016年度では「オリンピック」、2017年度では「近現代の公園」が取りあげられた。テーマ史としては定番とはいえないが、日常生活の中にも「歴史」があることを認識させようとする意図が、出題者にあったとも考えられる。

問1 29 正解は②。

ア サンフランシスコ平和条約の発効によって、日本が主権を回復した1952年、第3次吉田茂内閣のもとで、主権回復後に破壊活動防止法が成立した（破壊活動防止法は、暴力的破壊活動を行った団体の取締りを規定した法律）。同法の成立に反対するデモ隊と警官隊が衝突した事件が、血のメーデー事件（メーデー事件）。

1928年、田中義一内閣のもとで衆議院が解散され、初の男子普通選挙が実施された。この総選挙では労働農民党など無産政党から8名の当選者が生まれ、また非合法活動を余儀なくされていた日本共産党の活動も活発化する傾向をみせた。

こうした政治情勢に対して、政府は、日本共産党員とその同調者の大量検挙を行い（三・一五事件）、治安維持法の改正と特別高等警察（特高）の全国への組織拡充により弾圧体制を強化する措置をとった。治安維持法には最高刑を死刑または無期徒刑とするなどの改正が加えられたため、運動への威嚇効果は格段に強められることになった。つづいて1929年、政府は残された共産党幹部の一斉検挙を実施した（四・一六事件）。

イ 「二十周年記念祝賀会（1909年）」とあるため、1909年の20年前にあたる、1889年

に発布された大日本帝国憲法があてはまる。大日本帝国憲法の草案は、伊藤博文を中心に起草され、^{すうみついでん}枢密院の審議を経て、^{くろだきよたか}黒田清隆内閣時に欽定憲法として発布された。

普通選挙法は、1925年、^{かとうたかあき}加藤高明内閣（第1次加藤高明内閣、護憲三派内閣）のもとで制定されたので、1909年には成立していない。普通選挙とは、財産などの制限のない選挙のことであり、1925年に改正された衆議院議員選挙法は、原則として25歳以上の男性すべてに選挙権を与えるものだったため、普通選挙法と呼ばれる（女性参政権が付与された男女20歳以上を選挙人とする新選挙法は、1945年に成立）。

問2 30 正解は①。

I 「満州事変二周年記念大会」が開催されたのは、1933年。

1931年、奉天郊外で南満州鉄道の線路が爆破された^{りゅうじょうこ}柳条湖事件は、満州事変勃発の契機となった。爆破は関東軍によるものだったが、中国軍のしわざとされ、日本が軍事行動を開始するための口実とされた。日本軍は半年ほどで満州の主要地域を占領し、1932年、清朝最後の皇帝（宣統帝）だった^{ふぎしつせい}溥儀を執政として、満州国の建国を宣言させた。

II 「サイパン奪還国民有志大会」が開催されたのは、1944年7月以降。

南太平洋に位置するマリアナ諸島のサイパン島は、1919年のヴェルサイユ条約で日本が委任統治権を得た赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島に含まれる地域だった。

1942年6月、日本海軍は中部太平洋のミッドウェー島にある米軍基地を攻略しようとしたが、アメリカ海軍機動部隊の奇襲攻撃を受けて、主力空母4隻を失う大敗北を喫した（ミッドウェー海戦）。この海戦をきっかけに戦局は大きく転換し、アメリカ軍の反攻が本格化した。

1944年7月にサイパン島が陥落すると、マリアナ諸島には米軍の航空基地が建設され、岸信介が危惧したように、同年11月以降、B29爆撃機による本土空襲が本格化し、日本の戦争継続は困難になっていった。

III 「四党代表立会大演説会」が開催されたのは、1952～1955年のあいだ。

改進黨（1952～1954）の知識があれば、1952年以降だとも判断できるが、教科書本文に登場する政党ではないため、「左派社会党・自由党・右派社会党・改進黨」のうち、ヒントにできるのは、自由党（1950～1955）や左派社会党・右派社会党だろう。

55年体制の成立に関する情報を想起してほしい。

【参考】 保守合同と 55 年体制

サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約をめぐる、日本社会党の左派は両条約反対、日本社会党の右派は平和条約賛成・安保反対の立場をとり、同党は 1951 年に分裂した。

1954 年に成立した鳩山一郎内閣が憲法改正・再軍備を政治目標とするなかで、分裂していた日本社会党の右派と左派は、翌 1955 年に再統一した。これを受けて日本民主党と自由党とが合同して自由民主党が結成され、鳩山一郎は初代総裁となった（保守合同）。こうして自由民主党が内閣を組織し、最大野党である日本社会党が対抗する、55 年体制と呼ばれる政治体制が成立した。

問 3 31 正解は④。

X 「初代韓国統監をつとめたこの人物」は、伊藤博文。

長州藩士の伊藤博文は、幕末期に吉田松陰が主宰する松下村塾しょうかそんじゅくに学び、尊王攘夷運動に参加した。1870 年代には岩倉使節団に加わり、1880 年代には明治十四年の政変ののち憲法制定に着手した。1885 年以降に 4 度内閣を組織したが、この間の 1900 年、憲政党（旧自由党）や伊藤系官僚を中心に、立憲政友会を結成し、初代総裁となった。1905 年に締結された第 2 次日韓協約にもとづいて同年に統監府とうかんふが設置されると、伊藤は初代韓国統監となった。しかし、1909 年、ハルビン駅頭で韓国の民族運動家である安重根あんじゅうこんに暗殺された。

原敬はらたかしは、立憲政友会の 3 代総裁。1918 年、米騒動への対応を批判されて総辞職した寺内正毅内閣のあとを受けて、内閣を組織した。原敬内閣は、(1) 陸相・海相・外相以外の閣僚が立憲政友会会員で占められていたこと、(2) 原敬首相が、藩閥出身者や華族でなく衆議院に議席を持つ初めての首相（平民宰相せいしんさう）だったこと、などから最初の本格的な政党内閣とされる。

Y 「三井合名会社理事長の団琢磨（琢磨）らが殺害された」事件は、血盟団事件。

政党内閣や財閥などに対する国民の不信感が広がり、軍部への期待が高まるなかで、1932 年、井上準之助前蔵相や団琢磨だんたくま三井合名会社理事長が殺害された（血盟団事件）。

虎ノ門事件（虎の門事件）は、1923 年 12 月、難波大助による皇太子摂政宮裕仁親王（のちの昭和天皇）暗殺未遂事件。無政府主義者の一青年難波大助は、関東大震災の混乱のなかで起こった朝鮮人虐殺事件・亀戸事件・甘粕事件などに対する憤りから暗殺を決意した。帝国議会の開院式に裕仁親王が出席することを知り、虎の門付近で狙撃したが暗殺に失敗し、その場で逮捕された。翌 1924 年 11 月、難波大助は大逆罪で死刑に処された。

問4 32 正解は③。

X 「三菱に払い下げられたこの地の造船所」の「この地」は、長崎（→b）。

江戸幕府が幕末期にオランダの技術指導のもとで起工し、明治政府のもとで大規模なドックも整えられた長崎造船所は、1887年に三菱（岩崎弥太郎）に払い下げられた。

長崎造船所は三菱（三菱造船所）、兵庫（→a）にあった兵庫造船所は川崎（川崎造船所）へと、それぞれ払い下げられたが、横須賀造船所は民間に払い下げられなかったことに注意したい（第1問－問6）。

Y 「八幡製鉄所は、この地から産出する鉄鉱石を原材料として利用した」の「この地」は、^{だいや}大冶（→c）。

官営の八幡製鉄所は、日清戦争の賠償金などを資金として着工され、1901年から操業を開始した。設備・技術面ではドイツに依存し、清の大冶鉄山の鉄鉱石と筑豊炭田などの石炭（→d）を使用した。操業開始直後は不振であったが、日露戦争中の大拡張により生産が軌道に乗り、第一次世界大戦中には大戦景気を背景にさらに大幅な拡張が行われた。

問5 33 正解は③。

③ 日清戦争の前後には、個人の感情面を重んじる^{きたむらとうこく}北村透谷らの『文学界』を中心としたロマン主義文学が文壇の主流となった。

① 「民撰議院設立建白書」は『中央公論』ではなく、『^{にっしんしんじし}日新真事誌』に掲載された。^{みん}民撰議院設立建白書は大きな反響を呼び、建白書の提出は自由民権運動の口火となった。『中央公論』は明治時代に創刊された総合雑誌で、大正時代には^{よしの さくぞう}吉野作造による民本主義の評論などが掲載され、部数を伸ばした。

② 『横浜毎日新聞』は、1870年に創刊された、最初の日刊新聞（新聞紙条例は1875年に出された、政府を攻撃する新聞・雑誌の弾圧を目的とする法令なので、「新聞紙条例にもとづき、横浜毎日新聞が創刊された」は誤り、→第5問・問3）。

④ 「大衆娯楽雑誌として『キング』が創刊」されたのは、大正時代末期の1925年（「明治期の出版や文化」に関する文として誤り）。大衆娯楽雑誌『キング』は、「日本一面白い！日本一為になる！日本一の大部数！」をキャッチフレーズとして創刊され、その発行部数は創刊号は74万部、創刊の翌年には150万部に達した。

問6 34 正解は②。

X 正文。「1haあたり米生産量の増加率」と「^田耕地面積の増加率」を比較させる問題。受験会場で丁寧に計算することは困難かもしれないが、(1)近代化が進んでいる時期であるため、技術の改良などによって農業の集約化も進展しただろうと想定できること、

(2) 「田耕地面積の増加率」よりも「1ha あたり米生産量の増加率」のほうが高いことは、数値をみて感覚的に判断できること、から正答率は比較的高かったと思われる。

詳細なデータは次のようになっている（求められている「増加率」については、〔 〕内に示してある）。

米の生産に関する統計(10年ごとの平均値)

	米生産量 (1,000t)	田耕地面積 (1,000ha)	1 ha あたり 米生産量 (kg)
1881～1890年	4,990	2,660	1,876
1891～1900年	5,972	2,685 [約 1.01%]	2,224 [約 1.19%]
1901～1910年	6,917	2,819 [約 1.05%]	2,454 [約 1.10%]
1911～1920年	8,104	2,950 [約 1.05%]	2,747 [約 1.12%]

Y 誤文。農業協同組合（農協）は、第二次世界大戦後の1947年に制定された農業協同組合法にもとづいて発足した組織であるため、「1901年以降の米生産量の上昇は、農業協同組合（農協）のもとで推進された機械化の結果である」は誤り。

なお、農業組合の前身である産業組合は、1900年に公布された産業組合法にもとづいて組織されたため、「農業協同組合（農協）」を「産業組合」とすれば正文になる可能性はあるが、「米生産量の上昇」が「機械化の結果」であるのかは判断が難しい。

問7 35 正解は③。

③ 田中義一内閣は治安維持法を改正し、最高刑を死刑へと引き上げた。

1928年2月、衆議院が解散され、初の男性普通選挙が実施された。この総選挙では、非合法の日本共産党の影響下にあった労働農民党など、無産政党が合計8名の当選者を出した。このことに危機感を抱いた田中義一内閣は、(1)選挙直後の1928年3月15日、日本共産党員の一斉検挙を行う（三・一五事件→問1）、(2)治安維持法を改正して最高刑を死刑・無期懲役にする、(3)特別高等課（特高）を全国の道府県の警察に置く、(4)1929年4月16日にも共産党員の一斉検挙を行う（四・一六事件）、といった措置をとった。

治安維持法改正の主眼は、「国体」条項に関する罰則を強化することにあった。具体的には、「国体の変革または私有財産制度の否認を目的とする結社」の組織者または加入者に対し、(a)死刑・無期懲役の重刑を加える、(b)「結社の目的遂行の為にする行為」を新たに処罰対象とする（目的遂行罪）、というものだった。

この改正案には野党の立憲民政党などが反対し、衆議院で審議未了となった。しかし、田中義一内閣はこの審議未了となった法案を緊急勅令で復活させ、治安維持法の改正

を強行した。

- ① 国民思想の教化をはかるための『**国体の本義**』は、陸軍省ではなく**文部省**から発行された。『国体の本義』は、1937 年に全国の学校・官庁に配布された。
- ② 「共産主義」を「私有財産制」とすれば正文になる。
国体の変革 (天皇制の打倒) や**私有財産制度の否認**をめざす結社の組織者と参加者を、懲役または禁錮 10 年以下の刑に処すという内容を持つ**治安維持法**は、1925 年 3 月、第 1 次加藤高明 (護憲三派) 内閣のもとで成立した (4 月公布, 5 月施行)。
- ④ ドイツ降伏後の 1945 年 7 月、ベルリン郊外のポツダムでトルーマン・チャーチル (のちアトリー)・スターリンの米英ソ 3 国の首脳により会談が行われた (**ポツダム会談**)。この際、対日降伏勧告文書を用意していたアメリカは、イギリス・中華民国の同意を取りつけて、**ポツダム宣言**を発表した (ソ連は対日参戦後に加わった)。当時の**鈴木貫太郎内閣**は、「**国体護持**」(**天皇制の維持**) が宣言に明記されていないことを理由に、ポツダム宣言を黙殺した (「ポツダム宣言には国体護持を保証する条件が記されていた」は誤り)。

問 8 36 正解は⑥。

Ⅲ 「**山県有朋内閣**が、**軍部大臣現役武官制**を定めた」のは、**1900 年**。

1900 年、第 2 次**山県有朋内閣**のもとで、陸軍大臣 (陸相)・海軍大臣 (海相) の任用資格を現役の大將・中將に限定する**軍部大臣現役武官制**が定められた。それは、政党内閣が政党に近い**予備役** (現役を終えた者がその後、一定期間服する兵役) などの軍人を任命することができないようにするための措置だった。以後、**軍部大臣現役武官制**は、軍部が内閣を倒すための有力な武器として機能することになった。

Ⅱ 「**桂太郎内閣**が、**大逆事件**を契機に**社会主義者**を弾圧した」のは、**1910 年**。

1910 年 5 月、天皇爆殺計画が発覚し、4 人が検挙された (**大逆事件**)。これを機に**社会主義運動**の徹底的な弾圧をはかろうとする**第 2 次桂太郎内閣**のもとで、**社会主義者**ら数百人が検挙され、そのうち 26 名が**大逆罪**にあたるものとして起訴された。翌年の判決では、首謀者に仕立てあげられた**幸徳秋水**をはじめ、24 名が死刑とされ (うち 12 名は特赦により無期懲役に減刑)、**幸徳秋水**や**管野スガ**ら 12 名の死刑が執行された。この事件を機に警視庁に**特別高等課** (**特高**) が置かれるなど、**社会主義運動**・労働運動は「**冬の時代**」を迎えた。

Ⅰ 「**寺内正毅内閣**が、**軍隊**を出動させて**米騒動**を鎮圧した」のは、**1918 年**。

1918 年、**寺内正毅内閣**が**シベリア出兵**を決定したことによって米の投機的買占めが横行し、米価が高騰した。こうしたなかで、米の安売りを求めて米屋などを襲う暴動が**富山県**から全国に拡大していった (**米騒動**)。**寺内正毅内閣**は**軍隊**を出動させて**米騒動**を鎮圧したが、責任をとって総辞職した。